

企画にあたって わが国の心血管集中治療 の現状認識と課題解決

高山守正（公益財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院）

わが国のCCUの歴史は1960年代に始まり半世紀が経過し、その存立をかける大きな岐路に立っている。課題は大きく3点にある。

第1はすでにCoronary Care UnitからCardiovascular Intensive Care Unitへと脱皮・進化した世界の動きへの順応である。重症急性心筋梗塞の診断治療ノウハウを応用した心肺停止(cardiopulmonary arrest; CPA)/心原性ショック、重症心不全や急性大動脈症への質の高い診療についての解

説をいただいた。

第2はCCUにおける重症心血管集中治療に対する不十分な、あるいは的を射ない価値判断とこれに基づく行政枠からの規制を挙げる。これがもたらすCCU診療業務の制限、循環器集中治療領域での臨床研究低減、そして循環器医・心血管集中治療医の疲弊と離別が問題となる。循環器内科医による見地にて、新しく始まった保険診療での問題点を数点の総説に示されるメッセージから読み取って欲しい。

第3が心血管集中治療教育の積年の不備がもたらした今日の心血管集中治療の偏りと人材不足、循環器領域での教育プログラム欠落である。卒後教育をみると教育制度における欧米の心血管集中治療との差異は大きく、特に循環器領域からのアプローチがなく、これを十分に認識していなかった循環器医および筆者を含む心血管集中治療医の責任は大きい。解決への方策を多くの関係者の協力を依頼し、早急に構築していかなければならない。

この特集からどれだけのメッセージを国内に示すことができるかは不明だが、一つ一つの小さな努力が日本の心血管集中治療施設における診療・教育・研究のレベルを高めて、重症心血管疾患患者への質の高い治療と回復、社会生活への復帰が得られることを強く願う。